令和５年度　第１回　福井鉄道福武線活性化連携協議会　議事録

日　時：　令和６年３月５日（火）　１４：００～１５：３０
場　所：　福井県繊協ビル６０２号室
出席者：　別紙出席者名簿のとおり
資　料：　別紙資料のとおり

開会

１　会長挨拶

２　議事

規約第 8 条第 3 項により座長が会議の議長となって議事が進行された。

報告（１）福井鉄道からの報告について

福井鉄道から説明（報告（１）－①～⑤資料参照）

＜質疑応答＞

〇委員

定期外の乗車を増やすため、高齢者を増やしていく方針ということで、運転士が 3 名増え、減便からの利便性を戻すような形で日中 2 本増やすのはいいことだが、ハピラインふくいが開業すると、武生福井間の本数は現行より約 3 倍増で、18 本/日になる。増便により利便性が向上するハピラインふくいと競合するのではないかと思う。

また、福武線についても、新たけふ駅から南側への延伸について検討する計画となっていたと思うが、ハピラインふくいは、新駅の設置が決定している。利便性の面で、ハピラインふくいと競合すると、本当に高齢者や観光客を増やしていけるのかと懸念している。

〇福井鉄道

高齢者の買い物は、福武線沿線では、ベル、福井駅前にニーズがあると考えている。病院は、鯖江市内の林病院、中村病院、神明駅近くに丹南病院があり、福井市には赤十字前駅を設置している。各施設の最寄りの駅を持っているという優位性は確保していると考えている。

福武線からハピラインふくいに乗客が全て流れるのかというと、特に鯖江市内については、きめ細かに駅を配置しており、神明地区の住民がハピラインふくいを利用する場合、距離的な問題があり、完全に競合するということではなく、それぞれ地区によって使い分けができるものと考えている。

増便については、現状 23 名の運転士で、大幅な増便をしていくことは困難である。23

名の状態で、さらに増便し運転士に負担をかけることになると、労働環境の悪化につながり、運転士が辞めてしまう恐れがあり、同じ失敗を繰り返さないという方針であるため、ニーズの高い新幹線の始発・最終便に接続するダイヤ等、対応可能な範囲で最大限ということで増便した。

○委員

乗客を増やしていくために、観光客と高齢者に対象を絞ってやっていくということで、その人たちが利用した時に、使いやすかった、利便性が良かったという意識を持てると、繰り返し利用するということにも繋がると思うのでその点が重要だと思う。

○福井鉄道

観光客については、報告(1)-⑤で示したように、レトラムの貸切列車で、羽二重餅や水ようかんを提供し、福井の名物を味わっていただく企画等で、観光客のニーズをさらに捉えていきたいと考えている。ラッピング電車についても、越前市の協力で、紫式部のラッピング電車を導入した。福井市内で宿泊した観光客が大河ドラマ館等、越前市を訪れたいときには、ラッピング電車に乗って行きたいというニーズもあるため、ダイヤに加えて、企画列車、ラッピング電車を活用しながら、観光客の利用を増やしていきたいと考えている。

〇座長

鉄道だけではなく、駅を中心とした、沿線の魅力づくりということも重要になる。目的地があって、そこへの交通手段として鉄道を使うというスタイルを利用者は求めていると思うので、連動して魅力づくりをしていくことが求められる。また、今回は鉄道中心の話だが、駅までのフィーダー交通ももちろん重要である。各地域内のコミュニティバスや路線バスをうまく接続していかなければならない。計画としてはあるが、なかなかうまく接続して使っていただけないという現状があるため、鉄道だけでなく、バスも含めた公共交通として引き続き利用促進していく必要がある。

他に意見がないことを確認し、報告（1）終了。

報告（2）福武線再建スキーム管理部会及び福井鉄道交通圏地域公共交通計画
主要施策の進捗状況について

福武線再建スキーム管理部会事務局（越前市）から説明（報告（2）－①～⑤資料参照）

＜質疑応答＞

〇委員

集客のため、ご苦労されているということは理解している。今日、会場に来るために、20 数年ぶりに福武線を利用したが、高校生などで乗客はたくさんおり、コロナ前のレベルには達したという印象である。今後、少子高齢化など地元の人口が減少していく中で、観光客の集客というのが大事で、福井市、鯖江市、越前市とも、プランを考えていると

思うので、しっかりと周知して県外からの集客を図っていただきたいと思っている。

説明の中で、貨物輸送の検討とあったが、具体的にはどのようなものか。

○福井鉄道

人口減少、少子高齢化の流れへの対策は、喫緊の課題と考えている。沿線の人口が減少する中でも、多くの方々に、福武線を利用していただく取り組みを、今後さらに進めていきたいと考えている。現在も、シルバークラブの会合に福武線を利用していただけるよう、公民館にプロモーションする等、地道な活動ではあるが取り組んでいる。

観光客については、3月16日の新幹線開業がチャンスと捉えており、レトラムなどを活用して、集客、PRに努めていく。また、福井県観光連盟が主催している、東京、大阪、名古屋での観光商談会に昨年度から参加しており、観光エージェントの方々との商談に取り組んでいる。

貨物については、最近は、バス事業において、ヤマト運輸と連携して、越前市と池田町での貨客混載を路線バスで取り組んでいる。鉄道事業においても、全国でも数社、貨客混載をしている例があり、福武線においても前向きに検討していく。

○委員

福武線は、軌道区間と鉄道区間がある。以前から工夫されてはいるが、やはり、軌道区間の交差点内での接触事故が後を絶たない。大名町交差点や、新木田交差点は、交差点内に停止位置を示す区画線や舗装への着色による対策をしているが、東下交差点、仁愛高校前交差点、幸橋北詰交差点、毛矢交差点での対策が不十分に感じる。事故防止のため、取り締まりや、発光物の設置等、さらなる工夫ができないか。

○福井鉄道

東下、仁愛高校前、新木田では、接触事故が発生しているのが現状であり、原因は、自動車の直前右折である。これまで、交通管理者、道路管理者の協力で、右直分離信号やPTPSを設置することで、事故防止の取り組みを行っている。また、毎年、交通管理者と道路管理者と合同で勉強会を開催しており、電車のドライブレコーダーの映像を基に事故原因の検証を行っている。

○委員

安全広報の面で、県警交通規制課は、交通情報の収集と提供を日本道路交通情報センターに委託しており、週に1、2回程度、軌道区間の横断方法の注意点を、民間ラジオ放送内で流している。

フェニックス通りでは、右直分離の交差点とそうでない交差点があり、一般の方からも分かりにくいという指摘は受けている。全ての交差点で右直分離の方式が取れると良いのだが、道路形状の都合等、難しい部分があり、現在に至っている。

右直分離信号機をつける条件は、まず右折レーンがあること、そして常時右折の需要があることが条件となる。右折の需要がないときに、右折現示を出してしまうと、その信号が無駄になってしまい、円滑な道路交通に影響を与えることになってしまうため、道

路状況、交通状況を調査して設置の判断をしている。

○委員

維持修繕について、報告(2)-①P5 に、令和 5 年度上半期の実績で、101,145 千円となっているが、現時点での実績額はいくらか。令和 4 年度で 150,000 千円、令和 5 年度で 180,000 千円で合計 330,000 千円の事業費となっており、5 年間で 900,000 千円の計画のうち、この金額は使ってしまうということだと思うが、今後、予算内で計画的に維持修繕していけるということでよいか。

○事務局

維持修繕費の沿線 3 市の補助金について、令和 4 年度までの計画では、沿線 3 市で年間 150,000 千円を補助していた。令和 5 年度から新計画になり、福井市 68,800 千円、鯖江市と越前市 55,600 千円で年間 180,000 千円を 5 年間補助することで、合計 900,000 千円になる。

実績額については、2 月末時点で、180,000 千円以上の金額になっている。180,000 千円を超えた差額については、福井鉄道が負担するという形になるが、国からの補助もあり、平準化を図るようにしている。

○委員

P&R 駐車場の数について、令和 4 年度の時点で、15 駅で 395 台という報告を受けているが、393 台に減っている。何か理由があるのか。使用率も 1 年前は 51%であったが、今回は 50%を切っている。理由について分析しているか。

○福井鉄道

数が 2 台減っているが、毎年、若干の増減があるが、基本的に 395 台前後で運用している。P&R 駐車場には、自治体所有地を借りて P&R 駐車場としているものや、自社所有地を P&R 駐車場としているものや、民有地を借りて P&R 駐車場としているものなど、様々な形態があり、民有地の借地については、1 年間の契約で更新をしている関係で、毎年 1～2 台は変わってくるが、できるだけ多くの P&R 駐車場を確保していきたいという認識である。

使用率についても、前年度と比較すると若干減少しているが、毎年 50%前後で推移しており、使用率としては高い方だという認識である。さらに、利用してもらうため、案内チラシを駅等で配布している。また、サポーター企業にメール案内をしており、通勤利用が増えるよう取り組んでいる。50%で十分ということではなく、さらに、使用率が高まるようにこれからも取り組みを進めていく。

○委員

報告(2)-②で、黄色矢印のものと、黒矢印が使い分けされているが、それぞれどういう意味があるのか。

○事務局

計画や検討を進める事項は黄色矢印で、実施した事項は黒矢印で示している。資料に

追記させていただく。

○オブザーバー

報告(2)-③で、目標 2 の安全・安心に利用できる公共交通の実現の指標 2 に、部内原因による鉄道の遅延障害件数があるが、H28 の計画策定時が 20 件で、R4 も 20 件と変化がない。これは、車両側に原因があるのか、現場側に原因があるのか、輸送障害の状況と対策を教えてほしい。

○福井鉄道

遅延障害原因の内訳は、車両が 13 件、運輸が 5 件、電気が 2 件という状況であり、車両の故障が主な原因となっている。福武線の車両は超低床車両でエアロ部品が多いことが要因として考えられる。車両故障によるインシデントは発生しておらず、全て輸送障害となっている。

前期の計画では、150,000 千円であった支援額が、今期の計画では、180,000 千円に増額していただいたということもあり、安全な運行が確保できるように、しっかりと適時適切に検査及び点検などを行っていきたいと考えている。

○オブザーバー

故障の原因は老朽化なのか、別の原因なのか。

○福井鉄道

F1000 形車両では、例えば、雪による車両前面の損傷がある。F1000 形以外のものについては経年的な部内原因だと考えている。

○オブザーバー

雪など外的要因もあるということだが、経年劣化が進むようであれば、安全運行はもちろん、輸送障害が発生すると利用者の負担が大きくなるため、車両更新も進めていただきたい。

○委員

報告(2)-⑤の鉄道施設の省エネ化について、駅舎照明の LED 化という記載が無くなったが、完了したということか。

○福井鉄道

完了している。

○座長

先程、交通事故の話題があったが、昨年 8 月に宇都宮で LRT が開業した。道路に電車が走るということが最初は慣れないため、宇都宮大学と JAF 栃木支部が共同して、プレイマットという教材を作った。LRT の走行線路や標識を反映した街の様子が描かれたマットで、子どもたちがミニカーを走らせ、遊びながら交通ルールを学べるものになっている。福井には昔から路面電車があるため、ある程度知っている人はいるが、よく分からないから通るのを避ける人も多いと思う。今後、交流人口が増えてくると、初めての人が戸惑うような状況も十分あり得るため、イベント等で、プレイマットのようなものを使

って親子で楽しんでもらいながら学ぶ機会を設ける等、宇都宮を参考とした取り組みがあってもいいのではないかと思う。

他に意見がないことを確認し、報告（２）終了。

報告（３）国への要望の実施について

事務局（福井市）から説明（報告（３）資料参照）

＜質疑応答＞

○オブザーバー

安全設備の支援については、令和 5 年度は予算を確保し、要望通りすべての要望について 3 分の 1 の支援をさせていただいた。一方、令和 6 年度については、国会で審議中ではあるが、一般的な安全については 3 分の 1 を確保したが、車両の検査への支援については、観光庁予算を使っており、観光分野でのオーバーツーリズム対策や人材不足対策等に予算が必要で、鉄道分野への予算の振り分けが若干少なくなってしまった関係で、4 分の 1 となってしまった。今後も引き続き車両の検査は続いていくと思うので、その中で 3 分の 1 を確保できるようにしていきたいと思う。

災害時のバス輸送について、制度としては、鉄道軌道整備法の中の復旧に対する補助ということになるが、その中では設備の復旧を支援するということになっており、バスの運行費などの付帯的なものは対象外となる。制度の改正が必要なため、本省にも、引き続き要請をしていきたいと思うので、ご理解いただきたい。

他に意見がないことを確認し、報告（３）終了。

報告（４）「福武線開業 100 周年」及び「北陸新幹線福井開業」記念事業の実施について

事務局（福井市）から説明（報告（４）資料参照）

＜質疑応答＞

〇委員

新幹線開業でのメリットは、えちぜん鉄道と比べると少ないのではないかと思うが、福武線は福井駅に乗り入れているため、福井市や県の周辺施設で福井鉄道グッズを販売することが考えられないか。福井駅電停付近に恐竜ロボが設置されたが、角度によっては、恐竜が口を開けたときに、車両が口の中に入ってくる写真を撮ることができる。そういうものも活用し、福武線を PR していくと良いのではないか。

〇事務局

福井駅東口の福井市観光交流センターが先日オープンし、西口のハピリンにも福井市の施設が入っている。そこでグッズ販売できないか、関係課との調整を検討する。また、福井駅電停付近にティラノサウルスのロボットができたことで、写真スポットとしてア

ピールできると思うので、福井鉄道や関係機関と調整し検討していく。

〇座長

共通切符を造成しているので、鉄道で繋いだ各地にグッズを置いて買ってもらうというのは良いことだと思う。一方で、そこにしかないということで、利用してもらうという意図もあり、議論の余地はあると思うが、観光客にいろんな場所を巡ってもらうための材料として使っていくと良いと思う。

他に意見がないことを確認し、報告（４）終了。

３　その他

〇オブザーバー

北陸新幹線の延伸開業がすぐそこまで迫ってきた。関東・近畿からの来訪者が福井駅から各方面に移動していただくためには、2 次交通としての鉄道の役割は非常に大きい。決済を含めた利便性の良さ、段差解消による移動のしやすさ、ピクト表示によるわかりやすさ等が評価されることになる。新幹線開業には間に合わなかったが、ＩＣカード決済を導入されるということで、国も支援をさせていただいている。他方、利便性を向上させる部分の取り組みに加えて、前提として安全面が大事になってくるため、安全安心の取り組みとして、国の補助金を使っていただきながら、施設の改修・修繕をしっかり進めていただきたい。

全国に目を向けると、昨年 10 月に、地域公共交通の活性化及び再生に関する法律、通称地域交通法が改正された。全国各地のローカル線の沿線では、地域の関係者と、鉄道事業者が連携協働して、利用促進を含めて、持続可能な利便性を確保した新交通についての議論が加速化している状況である。国は、こういった前向きに取り組んでいる自治体、協議会に対して、様々な支援メニューを用意しており、運輸局としても様々な場面でお手伝い、支援をさせていただきたいと思うのでご検討いただければと思う。

〇座長

地域ぐるみで地域交通を支えるというところの支援メニューがあるということで、地域総出で地域に対しての考えを出し、作り上げていくことがますます大事になってくるため引き続き支援をよろしくお願いしたい。

他に意見がないことを確認し、終了。

閉会